

2章 文型 2

問題

【1】

ポイント

これまで扱った5文型の様々な論点をここで総復習してみよう。

解答・解説

- a OSV 「自然を愛するものを、お返しに自然は愛してくれる。」
 - b (S) VOO 「机の上にあるその手紙を速達で彼に出しておいてください。」
 - c (M) VS 「鍵をくわえた犬が走り去った。」
 - d SVCO 「私たちは、すべきだったことをやらずにおいておくことがよくある。」
 - e SV (M) C 「彼はどこから見ても紳士に見える。」
- every inch は副詞で「どこを見ても」の意味。

(1) a SVO

「その泥棒はドアに指紋を残した。」

behind は副詞。

(2) d SVCO

「この映画は世界中でそれを観た人々を幸せにした。」

SVOC の O が長いために後置された形。

(3) c MVS

「その都市の中心には自然豊かな大きな公園がある。」

場所を表す副詞句が前置されて MVS となる。lie は「横たわる」などの意味になる自動詞で lie-lay-lain と活用する。

(4) e CVS

「人々がラジオを聴くのを楽しむ時代は過ぎ去ってしまっている。」

The days are gone. の Gone が文頭にきたため CVS となる。

(5) b SVOO

「彼がそんなにひどいことを言ったということが私たちを大変驚かせた。」

that 節が名詞節となって主語になっている。

(6) a OSV

「まず第一に私たちはそれを実行に移すべきだ。」

この that は接続詞ではなく代名詞であることに注意。We should put that into practice.

の目的語 that が前置された形である。put A into practice 「A を実行に移す」

(7) a SVO

「私の生徒が理解したかどうか分からない。」

if S V は名詞節であり「S が V かどうかということ」という意味になる。

(8) c MVS

「嵐の後には静けさが来る。」[「今日の一言」の英文参照のこと。]

(9) d (S) VOC

「眠っている犬は寝かせておけ。(寝た子は起こすな；やぶへびは禁物)」

let は使役動詞であり，lie が目的格補語の原形不定詞である。

【2】

ポイント

5 文型と関連した重要動詞などを扱う演習問題である。

解答・解説

(1) c

SVOC 「誰でも自分の荷物が一番重と思う。」

‘O is C’, すなわち ‘his own sack is the heaviest’ の関係を考える。

(2) b

SV 「どんな紙でも結構です。あなたのメールアドレスを書き留めただけなので。」

S will do. で「Sで結構です。」という意味になる。

(3) b

SVC 「メアリはどう？ 彼女は近頃疲れているみたいだけど。」

seem C で「Cのように思われる」という意味。通常は進行形にしないで使う動詞の1つ。

(4) c

SVO 「コーヒーを飲みながらその問題について議論しよう。」

discuss は他動詞で「～について議論する」という意味。‘discuss about the matter’ とはならないことに注意する。speak は他動詞の場合「(言語など)を話す」の意味のためここでは合わない。

Ex. He can *speak* English. また，talk と look は原則として自動詞である。

(5) d

MVS 「この洗濯機はどこか調子が悪いように思われる。」

‘There is 構文’の is が seems to be になったと考えればよい。

(6) c

SVO 「私は彼を説得してお金を貸してもらった。」

talk は一般に自動詞であり，talk about A (Aについて話す) や，talk with A (Aと話をする) などと用いられるが，他動詞として talk A into …ing (Aを説得して…させる = persuade A into …ing) や，talk A out of …ing (Aを説得して…するのをやめさせる = persuade A out of …ing) のように使用される場合もあることは重要。

(7) c

SVC 「たくさんのお客さんが来たとき，その予備の部屋が大変役に立つとわかった。」

S = C となることに気が付けばよい。

prove (to be) C = turn out (to be) C 「Cであるとわかる」

(8) c

SVOO 「あなたは彼に借りているお金を返すべきです。」

owe O₁ O₂ 「O₁ に O₂ を負っている」 the money と you の間に which が省略されていることより **b** は不可。 **a** は意味的におかしい。 **d** は borrowed from なら可能である。

(9) **c**

SVOC 「医学研究は以前よりはるかに長い人生を可能にしつつある。」

render O C で 「O を C にする (= make O C)」

(10) **d**

OSV 「私がどんなに苦しんだのか誰にもわからない。」

tell は can と共に第3文型で用いられると 「わかる」という意味になる。

Ex. You *cannot* tell what will happen tomorrow. 1章【1】(8)も参照のこと。

【3】

ポイント

前置詞と副詞を区別する問題である。

一般に前置詞と呼ばれる語は副詞の意味を兼ね備えており、その区別を知らないと文型を取り違えたり、誤訳につながったりすることが多い。

例えば、get over A 「A を乗り越える」という場合の over は前置詞であるから、She got over the difficulty. は第1文型 [SV] であり、the difficulty を代名詞に置き換えると、She got over it. となる。他方、take over A 「A の後を継ぐ」という場合の over は副詞であるため、She took over the business from him. は第3文型 [SVO] であり、the business を代名詞に置き換えると、She took it over from him. と語順が変わる。

解答

a, b, d

解説

a 「私たちはその申し出を断った。」

down は副詞であるため文の要素とならず、the offer は目的語となる。the offer を it で置き換えると、We turned it down. となる。

b 「彼はその電気をつけた。」

on は副詞であるため文の要素とならず、the light は目的語となる。the light を it で置き換えると、He turned it on. となる。

c 「彼女は友人たちに助けを求めた。」

turn to A for B 「B を求めて A に頼る」この to は前置詞であり、her friends を代名詞にしても She turned to them for help となる。

d 「彼女は黒の長いコートを着た。」

on は副詞。cf. She put it on. (彼女はそれを着た。)

e 「スティーブンはその丘を上った。」

go は自動詞であることから自明と思われるが、up は前置詞である。

【4】

A.

全訳

我々は一生のうちに一連の戦争と革命を見てきた。我々の大部分はこれらの出来事のいくつかを自分の国で経験してきたが、そうでない人々ですら戦争や革命によって自分たちの生活を変えられたのである。

B.

全訳

①最近の概算によれば、50億の人間がこの小さな惑星の表面にひしめいている。それほど遠くない昔の石器時代には、我々は地球上に弱々しい足場を築いているにすぎなかった。その後我々は数を増やしながらかがっていき、とうとう今日では至るところに住みついている。②我々が周囲の環境にもたらした変化のため、急速にこの惑星は人間の居住には適さなくなってきた。我々は自分自身の知恵による犠牲者なのだ。③その知恵によって、現在すでに大規模な人口は40年経たないうちに2倍の100億にふくれあがるだろう。我々は決して珍しい種ではないのに、絶滅の危機に瀕しているのである。

【5】

解答

- (1) 「全訳」の下線部①～⑦参照。
- (2) c
- (3) 均衡のとれた人生観を持っている人。(17字)

解説

(1)

- ①◇ it は to do を受ける形式主語。
 - ◇ a vision of ～ 「～に関する見通し」 of の目的語は what you ～ ten years' time.
 - ◇ in front of ～ 「～の面前に」 は have を修飾している。
 - ◇ what ～ = things which ～ 「～するところのもの」
 - ◇ be doing : 将来の一時点で進行している内容を表す。
 - ◇ in ten years' time 「10年後に」 (= in ten years)
 - in : 経過時間を表す 「…後に」
- ②◇ If you do not get the required study you need for your future work accomplished during these years 「この時期に将来の仕事に必要な必修の勉強を終えておかないと」
 - get [have] O done 「①Oを…してもらう ②Oを…される ③Oを…してしまう (完了)」
 - 下線部がO
 - accomplish 「～を成し遂げる」
 - the required study (that) you need ～ と関係詞を補って考える。
 - required 「必修の」 (= the study which is required)
 - more than likely 「ほぼ確実に」

- will not … に挿入された形
- get it done
- it は the required study you need for your future work を指す。
- not … at all 「全く…ない」
- ③◇ absorb 「～を吸収する」
 - ◇ as ~ as … 「…と同じくらい～」
 - ◇ efficiently 「能率的に」
 - ◇ it does = the brain absorbs information
- ④◇ without ~ 「～なしで〔に〕」
 - ◇ to shoot for ~ 「～を目指す」
 - some goal or other を修飾する形容詞用法の不定詞。修飾される語が不定詞句の中の前置詞の目的語になっている。
 - some ~ or other 「何らかの～」
- ⑤◇ without the foggiest idea what a lawyer does all day 「弁護士が一日中何をするのか少しも知らずに」
 - foggiest < foggy 「ぼんやりとした」
 - ~ idea (of) what a lawyer does all day と前置詞が省略されていることに注意。
cf. I have no idea. (わかりません。)
 - ◇ the many aspects of law in which he or she might end up involved 「彼あるいは彼女が最後には関係することになるかもしれない法曹界の多くの側面」
 - 前置詞 + 関係代名詞
< he or she might end up involved *in* law
 - aspect 「側面」
 - might : 仮定法からきた用法で現在に関する推量を表す。may よりも婉曲な表現。
 - end up (as) C 「最後にCとなって終わる」
 - involved in ~ 「～に巻き込まれて；～に関係して」
- ⑥◇ it is no use talking to A nor, on the other hand, to B
 - 「Aに話をしても、また一方でBに話をしても無駄である」という文の骨組みを見落とさないよう注意する。
 - it is no use … ing 「…しても無駄である」
 - 否定語 A nor B 「AでもBでもない」
 - on the other hand 「その一方で」が挿入された形
 - ◇ a person so caught up in his chosen field that ~ 「自分が選んだ分野に夢中になるあまりに～する人」
 - so ~ that … 「非常に～なので…」
 - be caught up in ~ 「～に夢中になる」
= a person who is so caught up in ~
 - chosen 「好きな；選ばれた」
< choose *v.*

○ consider O (to be) C 「OがCであるとみなす」

⑦◇ recommend 「～を推薦する」

◇ a course of study for you to pursue 「あなたが続けるべき科目」

○ to pursue は a course of study を修飾する形容詞用法の不定詞。

○ 修飾される語が不定詞の意味上の目的語になる関係 (= a course of study which you should pursue)

○ for you が不定詞の意味上の主語

◇ more importantly 「もっと重要なことには」

◇ what to expect = what you should expect 「あなたが期待すべきこと」

○ tell の直接目的語になる「疑問詞 + to do」

◇ get to the finishing 「仕上げの段階に達する」

◇ practice law 「弁護士業を開業する」

○ practice 「～を開業する；～に従事する」

◇ yourself : you を強調する再帰代名詞の用法。

(2)

④職業のために勉強する大切な時間はほとんど残っていない状態で

○ with O C 「OがCの状態」《付帯状況を表す用法》

○ little 「ほとんど…ない」

○ leave over ~ 「～を残す」

a あなたが職業のために勉強するのを時間は待ってくれるであろうが

b 一生懸命試みれば、あなたは職業のための勉強時間を見つけるであろうが

c あなたは仕事のための勉強時間をあまり見つけられないであろうが

d すべてのささやかな時間を最大限に活用する方法を知っていれば、あなたは職業のための勉強をすることができるであろうが

(3)

ℓ. 18 It makes far more sense to first talk to someone in the profession with a balanced outlook on life の部分から判断する。

全訳

18歳という君の年齢では、①10年後にどんな仕事をしていきたいかという見通しを目の前に描くことが絶対に必要である。20歳から30歳までの時期は、物事を学ぶあらゆる時期の中で最も重要な時期である。②この時期に将来の仕事に必要な必修の勉強を終えておかないと、君はほぼ確実にその勉強を成し遂げることはないだろう。30歳までに君の生活は、妻子、家庭、仕事のある生活となり、一生の職業のために勉強する大切な時間はほとんど残っていないだろう。③この年齢の時には人の頭脳は若い時ほど能率良く情報を吸収しないとさえ言う人もいる。

30歳に向けての君の人生の目的や目標は今では夢や幻想にすぎないと言えるかもしれないが、それにもかかわらず現時点での刺激や勉学の励みとしてなお君の心の中心に置いておかねばならない。④目指す何らかの目標がなければ、長時間の勉学を続けることはほとんど不可能である。新たな1日が来て、君が足を床に下ろすたびに、目標を自分の眼前にかか

おかねばならない。なぜならばこうすることによってこそ、君は全ての苦勞を切り抜けることができるからである。すなわち、難しい勉強、落第した試験、論文の悪い点数、退屈な教授、あるいは難しいけれども必修の科目等を切り抜けることができるのである。

いったん目標を決めたら、その目標についてできるだけ多くの情報をねばり強く探し続けなさい。⑤弁護士は一日中何をするのか少しも知らずに、つまり結局自分が関係することになるかもしれない法曹界の多くの側面について何も知らずに、「私は弁護士になろうと思う」と言う人が多い。その職業について、均衡のとれた人生観を持っている人とまず話すほうがはるかに賢明である。⑥自分が選んだ分野に夢中になるあまりに法律をこの世で唯一の話題としか考えない人や、他方自ら選んだその仕事が嫌いだという人と話しても無駄だ。⑦良い「助言者」なら君が続けるべき科目を推薦してくれるであろうし、さらに重要なことに、君が仕上げの段階に達して開業するという時には、何を予期すべきかということを教えてくれるだろう。

注

- ℓ. 5 ◇ your life becomes one of wife and children, a house, a job 「あなたの生活は妻子と家と仕事のある生活になる」
- one は life を指す
 - 構成要素・材料を表す of 「～から成る」
- ℓ. 8 ◇ Your aim or goal in life for the age of thirty might be termed only a dream or a fantasy right now 「30歳に向けての君の人生の目的や目標は、今は夢や幻想にすぎないと言えるかもしれない」
- aim 「目標」
 - might : 婉曲表現。may よりも控えめな表現。
 - term O C 「OをCと呼ぶ〔名付ける〕」
- ℓ. 9 ◇ forefront 「最前線；中心」
- ◇ as your stimulus or motivation at this point 「現時点での刺激や勉強の励みとして」
 - as : 前置詞 「…として」
 - stimulus 「刺激」
 - motivation 「動機を与えること；刺激」
- ℓ. 10 ◇ it is almost impossible to keep up long hours of study 「長時間の勉強を続けることはほとんど不可能である」
- it は to do を受ける形式主語。
 - keep up ~ 「～を持続する；続ける」
- ℓ. 11 ◇ each new day (when) you put your feet on the floor と補って考える。
- ℓ. 12 ◇ for : 理由を表す節を導く接続詞 「というのは…だから」
- ◇ get A through B 「AにBを通り抜けさせる〔切り抜けさせる〕」
 - ◇ rough spots 「でこぼこの所；辛い場所」
- ℓ. 13 ◇ the hard work, a failed exam, a poor mark on an essay, a boring professor, or a difficult but required course
- 直前の all the rough spots の内容を同格的に説明している部分。

- a *failed* exam 「落第した試験」
- 自動詞の過去分詞は完了の意味を表す
- a boring professor 「退屈な教授」
cf. a bored professor (退屈した教授)
- boring 「人を退屈させるような」
- a difficult but required course 「難しいが必修の科目」
- required : course を修飾する過去分詞。
= a course that is *required*
- ℓ. 15 ◇ once ~ 「いったん~すると」
 - ここでは接続詞用法
cf. 副詞用法の場合「一度；かつて」の意
 - ◇ determine 「~を決定する」
 - ◇ pursue finding out as much about it as you possibly can 「それについてできるだけ多くの情報を発見し続けなさい」《命令形》
 - pursue 「①~の後を追う ②~に付きまとう ③ (研究・調査・仕事など) を続ける；~に従事する」
 - as ~ as S can 「できるだけ~」
 - possibly : can と共に用い、意味を強める用法「何とかして；できる限り」
 - it は your goal を指す。
- ℓ. 18 ◇ *It makes far more sense to first talk to someone in the profession with a balanced outlook on life* 「その職業についている、均衡のとれた人生観を持っている人とまず話すほうがはるかに賢明である」
 - It は to 不定詞を受ける形式主語。
 - make sense 「意味をなす；道理にかなう；賢明である」
 - far : 比較級を強める用法「ずっと」
 - first : to 不定詞に挿入された形。
 - outlook 「①見晴らし；眺め ②見通し；前途；展望 ③見解」

【6】

ポイント

いわゆる‘There is 構文’は非常に有名であるが、使われる動詞は単純な be 動詞ばかりとは限らない。また、英語では無生物を主語にした構文がよく用いられる。ここでは5文型との関連でこれらを演習する。

解答・解説

(1) There is always somebody there. [MVS]

いわゆる‘There is 構文’などと呼ばれる形式。主語は somebody で動詞が is である。

(2) There happened to be a train accident this morning. [MVS]

‘There is 構文’の is は様々な修飾を受けることがあり入試では頻出。この問題では、is が happened to be になったと考えればよい。

- (3) There occurred a mysterious case last night. [MVS]
 'There is 構文'の is が occurred に置き換わった形とも考えられる。
 occurred は「発生する」という意味の自動詞であり be 動詞の代わりとして用いられている。
- (4) This road will lead you to the station. [SVO]
 無生物主語構文とも呼ばれる形である。「この道が、あなたを駅へと導く。」と考える。
- (5) The next morning found him still unwell. [SVOC]
 無生物主語構文にして find O C を利用する。「翌朝が、彼が依然不快だとわかった。」という形式で日本語としては馴染みがない表現であるので、覚えておくべき事項と言える。
- (6) A little carelessness cost her a broken leg. [SVOO]
 これも無生物主語構文にして cost O₁ O₂ 「O₁にO₂という犠牲をかける」の形式にする。

【7】

A.

ポイント

5 文型の SVOC の要素を的確につかむ訓練を、誤文訂正という形で行う。

解答・解説

- (1) it を取る。
 SVC の文となり, trying to talk over the telephone in a foreign language が主語 (S) で seems が動詞 (V), very difficult が補語 (C) である。
- (2) business を取る。
 stay (V) open (C) 「開店中である」となるので business は不要。
- (3) me → to me
 explain は第 4 文型を取らない動詞の代表格。say と同様に explain A to B 「A を B に説明する」という形になる。他には suggest A to B 「A を B に提案する」が重要なので覚えておくとよい。
- (4) leave → to leave
 ask A to do 「A に…するように求める」この形は「命令文の間接話法」としても有名。
 Ex. He said to me, "Do it." = He told me to do it.
 He said to me, "Please do it." = He asked me to do it.

B.

ポイント

「どうして～」の表現をマスターしよう。

解答・解説

- (a) What made him (get) angry?
 直訳は「何が彼を怒らせたのか？」
- (b) What did he get angry for?
 直訳は「何のために彼は怒ったのか？」What … for? で「何のために→どうして」となる。
- (c) How come he got angry?
 How comes it that S V? という形が How come S V? となったと言われ、「どうして S が

Vなのか？」という意味になる。

【8】

解答

- (1) May [Can ; Might] I call at your home next Sunday?
- (2) I'll call for you at your home around eight o'clock on my way to the station.
- (3) Bring him [her] in.
- (4) Just stay calm.
- (5) Nice talking to you.
- (6) Let's keep in touch.

解説

(1) 「(～を) 訪問する」という時は call on (a person), call at (a person's home) の形を用いる。人を訪問する時は, May I call at your home [on you] ～? といった表現を用い、あらかじめ相手の都合を聞いてから出かけるのが礼儀。

だが, そういう予告なしに突然他人の家に「立ち寄る」場合は drop in を call の代わりに用いる。

Ex. He <u>dropped in</u>		on me.
		at my home.

(2) call at your home の call の次に for you を入れると, 「あなたをお連れするために」つまり「お迎えに」の意味になる。

「駅に行く途中に」: on the [one's] way to the station (この場合の station は了解事項なので the がつく)

「迎えに行く」ことがその時点で決まったものなら, I will, それ以前に決まっていたものなら I am going to を用いる。will は「その場での決定」, be going to は「すでに決まっている予定」を表すからである。

なお「(人を) 迎えにやる」という場合は send for を用いる。元来は send a servant for ～「～を迎えに召し使いをやる」の a servant が省かれてできたと考えられている。

Ex. You'd better send for the doctor right away. (すぐ医者を呼びに行け。)

(3) 訪問客を「中へ通しなさい」「その方を中へ通しなさい」と言う時の最も一般的な決まり文句は, Bring him [her] in. となる。

訪問客が男性であれば him, 女性であれば her になるのは当然であるが, bring in の in は前置詞ではなく副詞なので, 代名詞は, bring と in の間に必ずくる点に注意。him[her] のかわりに, the visitor [visitors], the guest [guests] を用いるなら, Bring the visitor in. も Bring in the visitor. も可能だが, Bring the visitor in. の方が頻度が高い。

これ以外の表現として,

Show		him [her; the visitor(s) ; the guest(s)] in.
Usher		

があるが, usher [ʌʃər] を用いるのは形式ばった言い方なので, usher はむしろ, 次のような例文で頭に入れておくとよいだろう。

Ex. The French Revolution ushered in a new age.

(フランス革命は新しい時代の到来を告げた。)

the song of birds that ushers in the dawn (夜明けを告げる鳥の歌声)

(4)

「落ち着きなさい」と相手をなだめる時の表現としては、

(Just) Stay calm.

(Just) Calm down.

Calm yourself.

Don't get so excited.

Cool down.

Pull yourself together.

Don't be nervous.

Take it easy.

Relax.

などいろいろあるが、中でも calm[ká:m] は、口語表現のみならず、発音問題、読解問題でも出題されるので要注意。

calm *v.* = become calm

Ex. "Excuse me. I'm lost." "Calm down. Where are you going?"

(すみません。迷子になってしまったんです。)

(落ち着いて下さい。どこに行かれるんですか。)

calm *adj.* = ① not nervous, angry or excited ② peaceful and undisturbed

Ex. ① He remained calm in the crisis. (彼はその危機に際して落ち着いていた。)

② a calm day (穏やかな日)

(5) 「あなたとお話できて楽しかったです。」は条件を考えなければ

It was nice talking to you.

とするのは容易だが、条件は4語である。

口語体の決まり文句では、文頭の It's や It was はよく省略される。本問においても It was を省略して、Nice talking to you. とすればよい。

(6) 「連絡を取り合いましょう。」を4語で表せば

Let's		keep		in		touch.
		stay				contact.
			communication.			

touch と contact は 電話・手紙など種々の通信手段による連絡のやりとり、communication は直接会ったり、電話・手紙で情報交換しあうことを表す。「連絡；交渉」の意味で用いる touch は受験生の盲点である。次の用例で確認しておこう。

Ex. Have you been in touch with Fred recently?

(フレッドと最近手紙のやりとりをしていますか。)

The old lady kept in touch with New York Society.

(その老婦人はニューヨーク社交界と接触を保っていた。)

I've lost touch with my brother since.

(以後、兄とは音信不通です。)

The leaders were out of touch with the people.

(指導者達は国民と没交渉になっていた。)

今日の一言

After a storm comes a calm.

「嵐の後には静けさが訪れる。」

After a storm という前置詞句が前置されて、MVS という構造になっている。

「どんなにひどい嵐であっても必ず過ぎ去って穏やかな晴れ間がやってくる」と述べるこのことわざは高校2年生である君たちにも十分に示唆深いものであろう。ただ日本語訳で「雨降って地固まる」というように解釈する人もいるようだ。